研究ノート

苦手さを知ること

渋谷　純子 a)

a 長野医療衛生専門学校　言語聴覚士学科

Junko Shibuya[a]

a Department of Speech-Language-Hearing Therapists, Nagano Medical Hygiene College

キーワード：時計の学習　計算　音読

巡回支援事業で小学校を訪問し、教師と学習環境の整備や対応方法などについての相談業務を行っている。その中で対象児の授業参観をすることが多いのだが、私が小学生の時とは大きく異なる教科書や教材、授業の進め方、教え方などに驚くことが多々ある。アクティブラーニングやICT（情報通信技術）教育、カラフルなイラストや写真など、子どもたちの興味関心や学習意欲を高める工夫が随所に見られ、授業自体も楽しく参観している。しかし、学習や生活面で苦労する子どもたちは少なくない。私も音読や計算、時計の学習などで苦労したことがあり、この仕事を通して当時もいろいろな工夫をしてもらっていたことに気が付いた。何十年も前の小学生の記憶はほとんどが楽しい思い出となっている中で、時計の学習は苦い思い出しか残っていない。当時の私は、『何分前・何分後』が分からなかった。「３時の１０分前は？」と聞かれると「３時１０分」、「３時の１０分後は？」「２時５０分」と答える典型的な時計の分からないタイプだった。「３時の１０分前だから２時５０分！」「前だから戻るの！」「１０分後は後だから進むの！」と誰に聞いても似たような説明で、力強く圧力高めに繰り返された記憶がある。

なぜ分からないのか当時は自分でも分からず、結局は『そういうものだ』と無理やりに理屈を飲み込んだ。大人になって私にとっての前後の概念は、『前に進みましょう』『後ろに戻りましょう』など『正面または背面の進む方向』という経験則で培われた初期段階で止まっており、１０分後と言われると後ろに戻りたくなったのかと整理ができ、気持ちのモヤモヤが晴れた。だからと言って分かったわけではなく、「１０分後」と言われると頭の中でアナログ時計をイメージし『１０分後、後だけど後ろじゃなくて前に進む、これから１０分経ったらの話だな』と無理やり飲み込んだ理屈で整理して生活している。親も匙を投げる中、生きてく上で時計の理解は必須！と空き時間や放課後に針を自分で動かす時計模型やプリントを使って付き合ってくれた担任の先生にはとても感謝している。

算数の中では加減算も非常に苦労した。数字は読める、『１２３４５』など順序も分かる、個々の数量も分かるのに、『１＋２』など簡単な計算

a 長野医療衛生専門学校
〒386－0012　長野県上田市中央 2-13-27
info@nagano-iryoueisei.ac.jp

から指を使わないと分からない状態が長く続いた。『１＋２＝３』などの暗記はできるのだが、私にとっては記憶に沿って数字の組み合わせを書く（答える）作業という認識だった。数量としての計算や正誤判断は指折りで確認すると確信が持て、『できた』という達成感につながっていた。数が大きくなると足の指も使っていた。

今も昔も指を使うことは算数初心者では珍しくないが、徐々に頭の中で計算できるようになるのが一般的である。その波に乗り遅れた私に対して、やはり担任が丁寧に付き合ってくれた。指折りを否定されたのではなく、片手の範囲で指を使って計算できていれば問題なかったのだが、数が大きくなると指折りの往復が増え８なのか１３なのか１８なのかと混乱して何度もやり直すことになったため、指折り以外で確実に計算できる方法が必要だった。算数セットを使ったり、点を描いたりなど試したが、最も効果的だったのがソロバンだった。『計算が苦手な我が子を心配して親がソロバン教室に入れた』と美談にしたいところだが、仲の良かった友人が自宅に近かったからという理由でソロバン教室に通い始めて一緒に行こうと誘われたのがきっかけだった。僥倖だった。数量のやりとりを視覚的に確認することで『計算している』『できた』という達成感が得られ、また指を動かすことで作動記憶として定着したのではないかと思う。友人とソロバン、習い事を応援してくれた両親のおかげで計算ができるようになり、その後数学が得意科目になった。今も『１＋２』など簡単な計算からある程度大きな数の加減乗除算まで、指や頭の中のソロバンを使って仕事や買い物などに対応できている。

余談になるが、科学技術の発達で携帯電話やスマートフォンに電卓が搭載されたことによりさらに暮らしやすくなったが、適応できないものも新たに発生した。キャッシュレス社会である。キャッシュレス決済はお金を使っている感覚が薄くなり使いすぎてしまうと言われて久しいが、数字は数字でしかない私にとっても本当にその通りで大変危険である。社会の流れを考えると、極力現金決済で生活し苦手さと向き合うことを先送りにしているままでは老後どころか五年後の生活も心配だ。一方で、困ったことだけでなく新しい気づきもあった。私は貨幣のやり取りを通して買い物をした感覚、楽しさ、お金のありがたさ、物事の価値などを感じているようだ。苦手な原因や補助手段などを整理しながら、自分に合ったキャッシュレス方法を色々試していこうと思う。

算数だけでなく国語でも一般的な方法に対応できず、少々苦労した。漢字練習は何回も続けて書くと最初の数個以外はどんどん線や点の数などが誤っていく（例：『青』の上の部首が三本線から二本線になるなど）、何回書いても覚えられないものがある（例：『冬、寒』の点々の方向が覚えられず、逆方向に書いても違和感がないので正誤判断も難しい）などから、十個ずつ書いていくといった漢字練習や宿題に取り組まなかった。取り組んだとしても、『青』の一画目を十個分書く、次に二画目を十個分書くといった作業として楽しさを取り入れて注意を受けた。音読は文字数や行数が多くなると読んでいるところを見失って同じ個所を何回も読んだり行を飛ばして読んだりすることが多く、非常に難しかった。読んでいる部分を見失うのは教科書に限った話ではなく、板書・ノート・教科書など視点を変えるたびに見失うため、全体を眺めてどこまでやったか記憶と照合して該当箇所を見つけ出すという作業を常にしていた。

これらは時計や計算と異なり、面倒くささを感じる程度で学習や生活への影響は少なかった。なぜ影響が少なかったのか分かったのは、この仕事に就いてからだった。小学校巡回をするにあたり支援方法の研修を受けた中に『ヴィジョントレーニング』という視知覚認知能力に関するものがあ

った。眼球運動の苦手さから起きるエピソードの多くが自分にあてはまり、演習で取り組んだ眼球運動のテストや練習も自他ともに感心するほど困難で、今まで感じていた面倒臭さの要因が分かっただけでなく、苦手さを補助する行動が身についていたことに驚いた。漢字は部首に分けて意味的に関連づけ、例文の穴埋め問題で覚える、書き順はパーツが意識できていれば基本的に自由、音読や黙読時は読んでいる箇所に指や定規を当てる、資料から目を離すときは印をつける、全体を上中下左右などブロックに分けて読んでいる大まかな位置を把握しておくなど、小学生の時に担任から一般的な方法の他に勧められて身についていた。そのおかげで平穏に過ごせていたのである。ちなみに、『冬・寒』の点々の方向は、「寒さに関するものだから、寒いの『さ』の点と同じ方向と覚えればどうか」と富井先生からアドバイスを受け、自信をもって書けるようになった。

『もし子どもたちが私たちの教えるやり方で学べないのであれば、その子の学び方で教えてごらん』という名言がある。当時の担任の先生に支援の概念や知識、技術があったのか、数年で定年を迎える大ベテランの経験や先生のセンスの賜物だったのか今となっては分からないが、私が気づいた以上の工夫を本当にたくさんしてもらっていたのだと思う。『私たちの教えるやり方で学べない』状態で右往左往している可能性もあった。『その子の学び方で教える』ことは本当に大切なことだが、簡単なことではない。得意・不得意や発達特性、性格などによって苦手さの要因が異なり、また私がそうであったように、なぜ分からないのか、どうすれば分かるのかなど子ども自身が整理して表現することは難しいからだ。これからも知識や技術を磨いていき、相手の立場に寄り添ったより良い支援につなげていこうと思う。

最後に私感になるが、効果的かどうかは関係なく『その子の学び方で教える』ために色々考えて色々な方法を教えてもらうこと自体がとても嬉しかった。「そういうの難しいんだね・難しいよね・そういうことあるよね」と分かってもらえる関係があったことも含めて、小学校生活は楽しい思い出となっている。いい先生や友人、両親、環境に恵まれ、今の私が在ることに感謝しながら、『何分前・何分後』の効果的な学び方にいつかたどり着きたい。

利益相反の開示

本研究に関する利益相反はない。